

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800238
法人名	医療法人輝栄会
事業所名	グループホームトリニテ松崎
所在地	福岡県福岡市東区松崎2丁目7-21
自己評価作成日	平成31年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成31年3月30日	評価結果確定日	令和1年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設前には公園があり、日和の良い日には散歩に出かけております。施設前の道路は子ども達の通学路でもあり、往来の際に挨拶をしたり、お話をしたりと交流することもあります。また、JR千早駅から車で5分程の位置にあり、利便性に富んでいます。母体が医療法人ということもあり、医療面でのサポートも充実しています。緊急時の対応も万全です。更に、小規模多機能ホームやサービス付き高齢者住宅併設の複合型施設ということもあり、小規模多機能などを利用しながら、更に介助が必要となればグループホームへの入所を検討することもでき、ご本人様やご家族様の安心に繋がっているようです。また施設で最期を迎える“看取り”の体勢の構築にも力を入れており、ご利用者が住み慣れたところで、また大切な方々に見守られながら、最後まで心豊かな生活が送れるようにスタッフ皆でケアにあたっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福岡輝栄会病院を母体とする「グループホームトリニテ松崎」は、サービス付き高齢者向け住宅、小規模多機能型居宅介護が併設されている。グループホーム単体ではなく、同じ建屋の関連事業所と一緒に地域の行事に参加するなど、積極的に地域の行事に参加をしている。事業所の近くには川や公園があり、入居しても屋外に散歩する場所が多くあり外出も良く行われている。建物も新しく、職員は入居者1人1人の性格を把握し、のんびりとした時間を共に過ごしているという雰囲気伝わってくる。医療機関が母体のため、受診時の送迎や介助は職員が実施している。そのため、必要に応じて必要な医療が受けやすい体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示と毎朝の引き継ぎ時では唱和を実践している。理念には入居者に寄り添うことを基本原則として、ご家族との信頼構築への接遇、地域との協働と貢献を高めていくとが込められていることを意識しながら実践している。	ユニット内に法人理念が掲示されている。朝礼時に職員全員で唱和を行い、少しでも理念の周知が図られるように努力している。理念通り、地域の行事に積極的に参加し、内外の情報交換が十分になされており、「開かれたホーム作り」となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヵ月毎の運営推進会議の開催、地域行事への(夏祭り、清掃活動等)への参加。秋のバザー&作品展は地域との共催。	地域とグループホームが共同主催で「認知症サポーター養成講座」を開催する等、月1回は地域の方々と様々な取り組みをされている。地域の夏祭りには、職員が「救護班」のメンバーに入り、参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校区における事業所間ネットワークの構築を充実させながら、「健康フェア」などへの職員の派遣や参加。「認知症カフェ」を年2回開催。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの前2ヵ月の報告を行い、事故防止への取り組みに対する意見などをいただき、今後の防止対策に生かしている。地域行事や社協行事のお知らせをいただき、協力や参加についてのすり合わせを行う。	2ヵ月に1回運営推進会議が開催されている。近隣の関連事業所や近隣の他事業所の出席もあり、積極的に事業所についての情報を提供している。社協や自治会長、民生委員、消防局等、幅広い分野からの出席があるため、幅広い情報交換が実施されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加要請は必ず行い、社協、支援センターからの出席がある。行事の紹介ははじめ行事の共催や参加要請など双方向での協力体制が充実しつつある。	福岡市の地域密着サービス系の職員が運営推進会議に出席しており、意見交換の機会を持っている。事業所内の苦情や行事等の現状報告も実施されている。研修講師を派遣してもらい、研修の機会を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の安全性の視点も加えた玄関の施錠開放を実施している。身体拘束ゼロケアの実践は出来ているし、常に心がけている。	現在、身体拘束を実施している入居者はいない。3ヵ月に1回は身体拘束に関する委員会が開催されており、記録されている。「権利擁護研修身体拘束ゼロ作戦実践編」という外部研修にも参加し、その内容が職員に対して伝達研修という形で周知されるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回以上の研修を実施しながら、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加などを通して、学習機会を確保したり職員間でも制度についての語り合う機会を設けて制度の理解に努めている。	身体拘束廃止に関する研修や高齢者虐待防止の研修と共に実施されている。権利擁護に関する外部研修にも参加し、その研修内容を職員に伝達研修という形で研修を実施している。現在、成年後見制度を利用されている方がいるため、必要に応じ、司法書士とのやりとりも行っている。	権利擁護の研修実施に苦慮されている様子でしたので、福岡県の研修講師団講師あっせん事業等、外部講師の活用を行って、権利擁護の研修が定期的に来れる様にしてはどうかと思います。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学、申込み、契約の時々において詳しく説明し、理解いただくように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ここでの聴取は常に頂ける様にしている。運営推進会議や地域での介護家族会の参加などの紹介や働きかけを行っている。	毎月、家族に対して新聞(社内報)を配布している。カラー刷りで写真や行事の実施状況等が細やかに記載されており、入居後も家族の方が入居後の生活が少しでも分るような工夫をされている。運営推進会議時に家族が参加され、家族から意見を頂いた事については、施設として今後どのように対応するかも記録として残っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見交換ができる環境づくりに努めている。ユニット会議の開催時などでも「意見を聞き、可能な限り、できることから着実に」をモットーに反映するように努めている。	トリニテ会議やユニット会議も月に1回は実施されており、運営についてやケアについて、何か改善等の意見がある場合は、職員が管理者等に意見を言っている。また、実施可能な事は、直ぐに実行に移している。	2ユニット間で、お互いのユニットの情報共有できると、よりスタッフの応援体制を図る事が出来ると思います。短時間、見守りが必要な際等、一方のユニットに見守りの応援を依頼するなど、互いのユニットにとってもメリットがあるかと思っています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニットでの実態把握を行い、部署や経営主体執行部への具申などを行うことで、職場環境・条件整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は性別を問わず、年齢層も幅広く、資格の有無も排除の対象にはしていない。採用後においても職員の意思や能力に十分配慮したものとなっている。	職員の募集や採用については、年齢制限をせずに幅広い年齢層からの採用を実施している。また働いている職員の特技や今までの経験を生かせるような取り組みも実施している。例えば美容師をしていた職員が入居者の美容を実施したり、スイーツ作りが得意な職員が誕生日のケーキを作ったり等、職員が生き生きと働く事が出来る場の提供がなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内の各種研修の際に人権の重要性やプライバシー保護についての啓発に努めている。また、外部研修への参加についても積極的に勤めている。	権利擁護や身体拘束廃止、高齢者虐待防止の研修の際に、併せて実施している。どのような事が身体拘束なのか、どのような事が虐待になるのか等の具体的な研修を実施している。また研修の記録もあり、客観的に実施した事が分かる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修参加の推奨と併せ、人材育成プログラムの作成構想を検討している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業間ネットワークが発足して2年、ネットワーク間の勉強会や研修会から地域への働きかけや共催事業の実施などが始まった。今後さらに施設サービスの向上につながるよう他事業所交流に努めているところである。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者だけに任せるのではなく、職員一人ひとりが本人の意思を引き出し、ご利用者様の生きがいや安心につなげていっております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様への生活状況等の報告はもちろん、信頼関係構築へのコミュニケーションを大切に、ご家族様の満足や安心につなげるよう努力しております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は管理者と計画作成担当者が主に生活歴や現状についてのヒヤリングを行います。そこで今必要な支援を考えています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「出来ない事を問題にするのではなく、その方が出来るような工夫をしよう！」とのスタッフ共通意思のもと、少しでも自立した生活、役割や生きがいをもった暮らしができる環境づくりを一緒に考えています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出レクやお誕生日会などには必ずご家族様にもお知らせし、ご参加を促す努力をしております。また認知症への理解を図る為のユニット新聞は認知症に関するコラムをはじめご家族様にも好評です。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別レクを通して馴染みの場所、人との関係が途切れることがないよう支援しております。ご家族の面会機会を設けたり、自宅への帰宅機会を企画実施しています。	月に1回、教会の方が来られて交流がある入居者がいるため、継続して関わりが出来る様に支援している。友人や知人の方も面会に来られており、入居後も少しでも今までの人との繋がりが切れないような支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションには必ず職員も参加し、声掛け、気配り、目配りをし、皆様が参加し孤立することないようにしております。レクを通しての共同作業やお世話をしたりされたりの関係を大事にしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了は、ほとんどが死亡退去です。そこで、入院加療となられた場合や施設替え等が生じた場合には面会やご家族との連絡なども配慮していきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を聞き出すことは難しい場合も多々ありますが、ご家族様からの聞き取りや日常の動作、生活歴などにも注意を払い、本人様に寄り添う努力をしています。	本人の意向が聞き取りにくい時は、家族に意向をお聞きしている。また、日常生活の中で入居者が「何かしたい」「何か食べたい」等の意向があった時は、その意向を大切にしている。また、生活歴を把握して、その中から本人が望みそうな事を職員間で検討して、出来る事を支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時のアセスメントを重要視しており、スタッフが関わること、本人家族への寄り添いの気持ちを大切にした傾聴に徹することで今後の支援につながるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や水分量、排泄の状況は詳細に記録しており、その都度NSにも報告助言してもらい、健康管理をしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気付きを大切に、ケアプランに反映させております。ご本人はもちろん、ご家族様にも計画段階で必ず意見を聞き、反映させる努力をしております。	介護支援専門員がケアプランを立案する事もあれば、居室担当がケアプランを立案する事もある。職員からケアプランに対しての意見を出してもらい、その意見に基づいて職員間で話し合い、ケアプランを立案しているため、職員全員で共同してケアプランを立案している事が良くわかる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づく記録、またご利用者様が発した言葉や態度を正確に記録することに努めています。また、職員間で情報共有するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご利用者様のご要望には出来る限り対応するように努めています。ご家族様との連絡も日頃から細かなものとなるように配慮しています。「寄り添う」ケアに努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清掃活動や夏祭り、バザーなどでは地域の方々と交流はあります。ここ数年では「認知症カフェ」の開催や他事業所との地域ネットワークの構築などにも積極的に関わっています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院がある方に関しては受診のサポートをしたり、ご家族との連携にも注意を払っています。	入居後も、入居前の主治医にかかる事を希望される場合は、その意向を最大限尊重している。母体である輝栄会への受診に関してはグループホーム職員が受診介助を実施しているため、医療体制についてのバックアップが十分実施されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づきがあれば看護師に相談し、必要と判断されれば受診の介助もしております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体が病院ということもあり、入退院時の情報交換はスムーズに行っております。また入院中はこまめに面会に行き、遠方のご家族様に状況を報告するなどしております。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだまだ職員の研修も十分であるとはいえないので、今後の課題です。	看取りの実績はないものの、入居時に看取りに関しての意向をお聞きしたり、事業所としてどこまで対応が可能なかの説明を十分に行っている。また、最期まで事業所で過ごしたいとの希望がある場合は、主治医と連携をして、少しでも長く事業所で過ごせる様に調整をしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命処置の研修を行ったほか、緊急連絡網は職員の異動などがあつた際はすぐに見直し、その際に職員に緊急時対応・応援要請などについて職員間で情報共有しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、施設全体で防災訓練を行い、その際にはご利用者様にも実際に避難して頂き、訓練の為に訓練にならないようにしております。最近の全国的な災害の状況などを充分生かした防災訓練の実施が課題だと考えており、企画実施に努めていきます。	食料と水を3日分備蓄しており、いざという時の備えをしている。また、年2回避難訓練を実施している。万が一近くの河川の氾濫があった場合についても、関連事業所と連携し、避難が出来る様に、また避難場所の確保が出来るようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳の保持」や「人生の価値」に視点を当て、自尊心を傷つけないような声掛け・介助に努めております。	入居者に対しての言葉遣いも丁寧であり、時間をかけて丁寧に言葉かけを実施している。アセスメントや日々のケアの中で、入居者の特徴をつかみ、自尊心が傷つかないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が選択・決定できるような声掛けをするよう、職員皆心がけております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の一日の流れはありますが、ご利用者様の体調や希望に合わせて一日を組み立てるように心がけております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は本人の意思を第一としたうえで、一緒に選んでいます。その人らしさを大切にした化粧や清潔保持の視点からの爪切りなどにも気を配りながら支援を展開しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、出来る方に手伝っていただくようにしています。また行事等で手作りする時は材料を切って頂いたして、出来る限り参加していただくようにしております。	昼食は入居者と一緒に食べる等、少しでも入居者と共に時間を過ごし、食事を共に楽しむようにしている。また、食事のつぎ分けや配膳、下膳、テーブル拭き等、入居者が可能な事はしてもらい、入居者の持てる力を生かす工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい方にはゼリーなどを作って提供したり、食が細い方には間食を用意し食べて頂いたりしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。自立で出来る方はして頂き、その後で職員が仕上げをします。うがいが困難な方や舌磨きが必要な方にはスポンジブラシでのケアも行っております。歯科往診も継続しております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄リズムをつかみ本人様への声掛けを行っています。年々、機能の低下が顕著となられている現状の中では自立排泄は困難となっています。清潔保持や褥瘡防止などに注意の力点が移っています。	極力、下剤を使用せずに自然排便できるようにケアを工夫している。自家製のヨーグルトを作り、好む入居者に食べて頂き、自然排便出来る様に支援している。下剤を使わなくても排便が出来る入居者が出てきており、効果が出ている。排泄チェック表で排泄パターンの観察を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の管理を行い、便秘がちな方や既往歴上便秘が禁忌な方に関連薬を看護師管理の下で適宜提供しております。また歩行訓練や体操など身体を動かし、自然な排便を促しております。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2~3回の入浴実施となっています。湯船につかることにも困難な入居者が増えており、特浴やシャワー浴の実施となる場合には浴室や脱衣室の温度には最大限の注意を払って実施しています。できるかぎり、満足な笑顔が覗える入浴を心がけています。	季節に応じた入浴や、入居者の好みのシャンプーやリンスがある場合は、好みに応じて対応をしている。普通浴槽で入浴介助が難しい入居者については、機会浴で対応をしている。入浴は原則、日中の対応であるが、入居者がどうしても入浴を好まない日は、入浴日を変更して対応する等している。体調不良等により、入浴が困難な時は、清拭や足浴等で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の夜間の睡眠状態や日中の状態を確認して適宜午睡を取り入れています。就寝時間についてもある程度スケジュールはありますが、ご本人様の意思を尊重し、ご本人様が寝たい時に寝、起きたい時に起きれるように職員は配慮しております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情は個人ファイルで管理しており、適宜確認できるようにしています。また処方薬変更時には業務日報と口頭の申し送りにて伝達し、職員ひとりひとりがきちんと把握するよう努めております。誤薬、残薬などがみられる現状もあり、服薬の前後のマニュアル順守を徹底するように努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ぬりえやドリルなど、ご本人様の得意な事に沿ったレクの提供は毎朝行っています。飽きのこないようにレク素材も毎回検討し準備しております。笑顔と活気が覗える支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく戸外に出て、外気浴をするようにしております。また季節に合わせた外出レクも企画、実施しています。体調や気分などに配慮し、安全と意欲・機能向上の調整に配慮して実施しています。	事業所のすぐ近くに公園があるため、天気の良い日や気候の良い日は、散歩に行っている。また季節ごとに外出行事を企画して、定期的にドライブに行っている。地域の行事やイベント等にも積極的に参加し、少しでも外出の機会が多く持てる様に、また入居者の行きたい場所を聞いて出かける様にしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関する支援は、すでに理解が出来ない状態です。中に2・3人の入居者様が保管されておりますが、中身の金額については明確に把握しており、基本的には3か月に一度は確認しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙を書く援助もしたいと考えています。「帰宅願望」が強く出現し、「電話して下さい」などの言動が見られる場合などには電話対応することもあります。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を表す飾りつけや家族写真・スナップ写真などを中心に居室環境や共用空間づくりに努めています。入居者様の作品なども飾り付けています。換気や採光も重要と考え常に配慮した快適環境を心がけています。	玄関や廊下には、外出時や行事の際の写真が貼っている。また、日頃作成した作品も展示されている。事業所内は天窓があり、日差しが良く入り明るい環境である。また各所にソファが設置されており、大きな窓に向かって日向ぼっこ出来て、落ち着ける環境である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	まさに、居心地の良い、安心できる生活空間・環境の提供に努めています。日々新たな刺激と喜びが感じられ、その人らしい暮らしの継続を支援の目的として取り組んでいます。そのために、1人の時間や仲間と過ごす時間などが実感できるように工夫しています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本は本人及びご家族の意向に添った、使い慣れた家具や環境づくりを優先しています。そのうえで、より良い生活空間と安全性確保の観点から常に環境整備に努めています。	各居室に介護用ベッドが設置されている。また写真や筆筒等は、自宅に居た時に使い慣れた物を持ち込んで、引続き使用している。居室内は毎日職員が掃除をしており、きれいな環境である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境は、最重要の生活支援だと自覚しています。居室ドアに大きく名前を書いたり、目印をつけたりするなど、その方々に合わせた「わかる」工夫に努めています。		